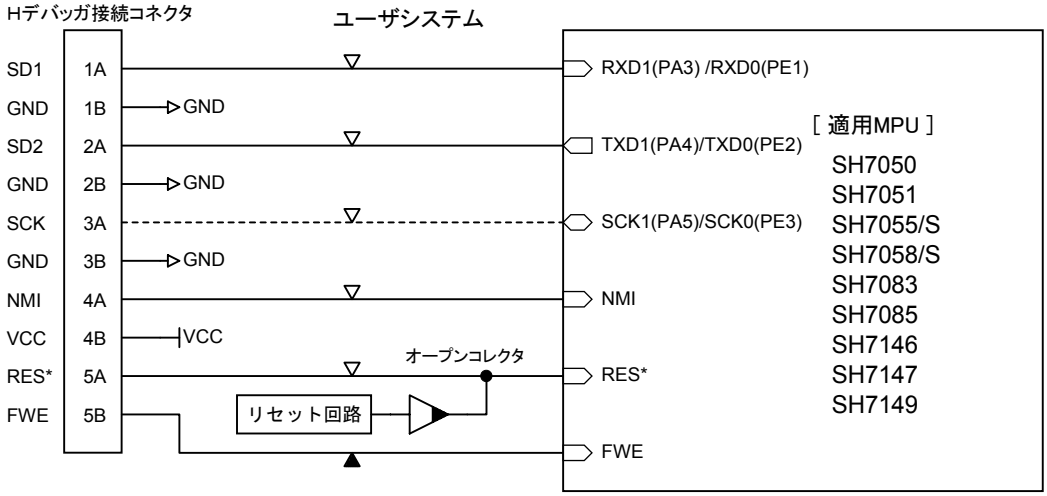
【 接続例２２ 】 SH7050,51,55/S,58/S,83,85,7146,47,49の場合（ブート接続）



1） ▽印はプルアップ抵抗です、▲印はプルダウウン抵抗です。抵抗値は4．7K～22Kの範囲を推奨します。
2） ブート用ポート経由でモニタ組込後であればCPU設定によりSCI0(PE1,2,3)のシリアルに変更して使用できます。
（SH7147の場合のみ変更可能です。）
3） リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になるハードを設計して下さい。
4） CPU動作モード（ブート・実動作）設定回路は、ユーザ（ターゲット）側で用意して下さい。
5） CPU設定でターゲットI/Fを調歩同期／クロック同期の選択ができます。
調歩同期側に選択した場合は、SCKを開放にして下さい。